

## 第6学年 体育科学習指導案

日 時：平成14年10月18日（金）6校時  
 児 童：6年1組（男12名女11名計23名）  
 指導者：菅野 一孝  
 場 所：体育館

### 1 単元名 器械運動 「跳び箱運動」 ～みんなでジャンプ・ジャンプ・ジャンプ！～

#### 2 単元について

##### (1) 教材について

第5学年・第6学年の体育科の目標は、「(1) 各種の運動の課題をもち、活動を工夫して、その運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、その特性に応じた技能を身に付け、体の調子を整え、体力を高める。」である。

本単元の教材である跳び箱運動は、助走、踏み切り、第1空中局面、着手、第2空中局面、着地という一連の動作をリズムカルに行う運動である。また、跳び箱の高さや長さに挑戦したり、跳び方できばえを高めようとしたりして、達成感、成就感を味わえる運動でもある。

これらの跳び箱運動の特性に十分触れさせながら、上に掲げる目標に迫るよう学習を進めていく。

##### (2) 児童について

事前のアンケートの結果、「跳び箱運動が好きですか」の問いに対して、以下のようになった。

|     |     |  |
|-----|-----|--|
| 好き  | 19人 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・跳べるとうれしいし、高い段にも挑戦できるから。</li> <li>・高い跳び箱を跳べるように、練習するのが楽しいから。</li> <li>・手の位置や足のあげ方などを気を付ければ、簡単に跳べるから。</li> </ul> |
| きらい | 4人  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつも跳び箱の上ののってしまうから。</li> <li>・跳べないし、足とか痛くなるし、一人だけ跳べないのにみんな跳んだりするといやだから。</li> </ul>                              |

また、「どんな学習にしていきたいか」の問いに対して「好き」と答えた児童は「跳び箱も工夫してポイントをつかみたい」「きれいな跳び方の練習」「高い段に挑戦したい」「いろいろな技に挑戦したい」という意見が多かった。「きらい」と答えた児童は「きらいな人でも楽しく学べる学習」「できる人とできない人を分けてやりたい」「跳び箱をハードルみたいに並べてやってみよう」という意見だった。

コンピュータを使った学習にはほとんどの児童が意欲的に取り組み、インターネットを使っての調べ学習等で活用している。また、体育では、マット運動やハードル走で課題解決の道具、記録のための道具として活用した。

##### (3) 指導にあたって

単元の前半では、今まで学習してきた技のポイントを考えたり調べたりさせながら、学び合いを通して学習する。技のポイントを考えさせる資料として、インターネットからの情報を参考にさせる。考えた技のポイントは、「南小の技のポイント集」として蓄積する。児童が今まで取り組んできた跳び箱運動の技は、「開脚跳び」「かかえこみ跳び」「台上前転」である。

単元の後半では、回転系の技に挑戦していく。そして、できる技の精度を高め、集団演技につなげていく。

単元を通して、準備運動では、主運動につながるような動きを数多く取り入れ、基礎感覚をつかませていく。

##### (4) 単元におけるコンピュータ活用

本単元では、コンピュータを次のように活用する。

一つめは、インターネットを用いて技のポイントを調べる、情報収集としての道具。資料として提示することで、児童同士で考えつかなかったときや、もう少し深めさせたいときに役立つ。

二つめは、動画から技の動きをイメージとしてとらえる、シミュレーションとしての道具。

三つめは、考えた技のポイントをホームページビルダーに書き込む、記録としての道具。技のポイントをまとめ、「南小の技のポイント集」を作成することにより、その後の学習や他学年にも活用できる。

### 3 単元目標

(関心・意欲・態度)

- ・より高い動きを身に付けるために、最後まで根気強く運動することができる。
- ・仲間を意識し、互いに教え合ったり励まし合ったりして、協力しながら運動できる。
- ・場所の安全に留意したり協力したりして、用具の準備や後片付けをすることができる。

(思考・判断)

- ・より高い動きを身に付けるための技のポイントを考えることができる。
- ・自分の力に合っためあてを設定し、達成するために適切な場や練習方法を工夫することができる。
- ・できばえや動きを評価し合いながら学習を進めることができる。

(技能)

- ・自分の力に合った技について、より高い動きができる。
- ・仲間とリズムを合わせながら集団演技ができる。

### 4 指導計画 (11時間)

| 学習内容  | 時間                      | コンピュータ及び周辺機器の使い方                      |
|---|-------------------------|---------------------------------------|
| オリエンテーション<br>・できる技の確認をし学習計画を立てる<br>・準備運動の仕方を知る。   | 2時間<br>1<br>1           |                                       |
| 今まで学習した技のポイントを考える<br>・開脚跳びの技のポイントを考える。<br>・かかえ込み跳びの技のポイントを考える。<br>・台上前転の技のポイントを考える。<br>(考えた各技のポイントを「南小の技のポイント集」に書き込む) | 3時間<br>1(本時)<br>1<br>1  | コンピュータ(情報収集の道具、シミュレーションの道具)<br>ディスプレイ |
| 回転系の技に挑戦する<br>・膝の伸びた台上前転を練習する。<br>・「はね」の練習をする。  | 2時間<br>1<br>1           | コンピュータ(情報収集の道具、シミュレーションの道具)<br>ディスプレイ |
| 集団演技に挑戦する<br>・集団演技での個人課題を決める。<br>・集団演技の技を練習する。<br>・集団での演技を合わせる。<br>・集団演技をする。  | 4時間<br>1<br>1<br>1<br>1 | コンピュータ(課題解決の道具)<br>ディスプレイ             |

### 5 本時の指導

#### (1) 目標

仲間と教え合ったり、インターネットなどの資料を使ったりして、開脚跳びの技のポイントがわかる。

#### (2) コンピュータ活用の視点

インターネットで検索した開脚跳びのコツを資料として提示することで、児童の思考を助ける補助として活用できるのではないかな。

○<使用者> 教師、児童 <場面> 展開 情報収集の道具として シミュレーションの道具として

○使用ソフト インターネットエクスプローラー (子どもと先生のための器械運動のコツ、大阪市小学校体育研究会)

○周辺機器 ディスプレイ

## (3) 展開

◎主発問 ●指示 ◇支援 ☆評価

| 展開             | 学 習 活 動  | 主発問と指示・予想される反応  | 支援と評価の工夫   |
|----------------|--|---|--|
| つかむ・見通す<br>10分 | 1 集合、あいさつ<br>2 準備運動<br>・腕支持<br>・高さ等<br>3 場の設定をする<br>4 学習課題の確認<br>5 技のポイントの観点をつかむ | 美しい開脚跳びにするための技のポイントを考えよう<br>●助走、ふみきり、着手、空中、着地の場面ごとに技のポイントを考えましょう。   | ◇音楽をかけ、リズムに乗って準備運動をさせる。<br>☆協力して用具の準備ができたか。(観察)<br>◇「南小の技のポイント集」を作ること意識させる。<br>◇各局面を図で示し、理解を図る。  |
| ふかめる<br>27分    | 6 開脚跳びの技のポイントを考える  | ◎各局面について、美しい開脚跳びにするための技のポイントを、グループで考えましょう。<br><br>◎グループで考えたことを発表しましょう。<br>・スタートする前にイメージする<br>・両足で強く踏み切る<br>・腰を高く上げ、跳び箱の前のほうに手をつく<br>・足を開き肩を前に出す<br>・前の方を見て着地する<br><br>●他のグループの考えた技のポイントを試してみよう。 | ◇跳び箱の規格が様々なので、大きさにあった場所で行わせる。<br>◇各グループごとに教え合ったり補助し合ったりして練習させる。<br>◇跳び越せない児童には個別指導を行う。<br>◇コンピュータ活用(情報収集、シミュレーション)<br>◇各グループを観察し、助言をする。<br>☆仲間と教え合って、技のポイントを考えることができたか。(観察)<br>◇発表のあと、質問や意見をとり、検証するときの手立てにさせる。<br>◇他のグループのよい点、問題点を確認させる。<br>☆仲間と教え合って、技のポイントを考えることができたか。(観察) |
| まとめる<br>8分     | 7 開脚跳びの技のポイントをまとめる<br>8 学習を振り返る<br>9 用具の後始末と整理運動、あいさつ                            | ◎「南小の技のポイント集」に入れてもいいものを話し合おう。<br>●今日の授業を振り返り、学習カードに記入しよう。   | ◇問題点のあるものを除き、その他は全部入れるようにする。<br>☆開脚跳びの技のポイントがわかったか。(自己評価カード)<br>☆協力して後始末ができたか。(観察)   |

(4) 評価

仲間と教え合ったり、インターネットなどの資料を使ったりして、開脚跳びの技のポイントがわかったか。(観察、記録)

6 場の設定

| ステージ |  |  |
|------|--|--|
| 画面   |  |  |
| PC   |  |  |
|      |  |  |
|      |  |  |
|      |  |  |
|      |  |  |
|      |  |  |